

国立国語研究所学術情報リポジトリ

プロジェクトの概要

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木部, 暢子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002459

1 プロジェクトの概要

木部 暢子（国立国語研究所）

1 プロジェクトの目的

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」は、国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクトとして2009年にスタートした。プロジェクトの目的は以下のとおりである。

グローバル化が進む中、世界中の少数言語が消滅の危機に瀕している。2009年2月のユネスコの発表によると、日本語方言の中では、沖縄県のほぼ全域の方言、鹿児島県の奄美方言、東京都の八丈方言が危険な状態にあるとされている。これらの危機方言は、他の方言ではすでに失われてしまった古代日本語の特徴や、他の方言とは異なる言語システムを有している場合が多く、一地域の方言研究だけでなく、歴史言語学、一般言語学の面でも高い価値を持っている。また、これらの方言では、小さな集落ごとに方言が違っている場合が多く、バリエーションがどのように形成されたか、という点でも注目される。

本プロジェクトでは、フィールドワークに実績を持つ全国の研究者を組織して、これら危機方言の調査を行い、その特徴を明らかにすると同時に、言語の多様性形成のプロセスや言語の一般特性の解明にあたる。また、方言を映像や音声で記録・保存し、それらを一般公開することにより、危機方言の記録・保存・普及を行う。

（国立国語研究所ホームページより）

2 研究方法

消滅危機方言の調査は緊急を要する。そのため、フィールド調査に実績を持つ国内外の研究者を組織化し、調査研究を効率的に進める必要がある。また、質の高いデータを残すために、これまで、必ずしも統一的でなかった方言（言語）の調査方法や記述方法に統一性を持たせる必要がある。さらに、将来の方言（言語）研究を担う若手研究者の育成も必要である。以上を踏まえて、本プロジェクトでは次の2種類の調査をベースとして研究を進めている。

- (1) 共同研究者が各自のフィールドで行う各地点調査研究
- (2) 共同研究者が一同に会して行う合同調査研究

(1) はそれぞれの共同研究者がそれぞれのフィールドで行う調査研究で、共同研究者はその成果をプロジェクトの共同研究発表会で発表し、自分の調査研究を発展させるきっかけとしている（共同研究発表会では、若手研究者の研究を支援するために、共同研究者以外の若手研究者が発表を行うこともある）。

(2) は調査地点を定め、その地点の音声・アクセント・文法・基礎語彙・談話等を総合的に記述する調査である。この調査には、共同研究者だけでなくポスドク、学振特別研究員、大学院生といった若手研究者も参加し、参加者が共同で調査・データ整理・報告書の作成を行っている。これまで、鹿児島県喜界島方言調査（2010年9月）、沖縄県宮古方言調査（2011年9月）の2回の調査を行った。

3 共同研究発表会

フィールド調査のほかに、年2・3回、公開の共同研究発表会を開催し、研究者同士の意見交換を行っている。平成23年度は以下のような研究会を開催した。

■平成23年度 第1回（「語彙の音韻特性」と合同開催）

日時：平成23年5月21日（土）・5月22日（日）

場所：神戸大学

5月21日（土）[公開シンポジウム] N型アクセントの原理と成立

1. 上野善道（東京大学名誉教授 / 国立国語研究所客員教授）
「N型アクセントとは何か」
2. 木部暢子（国立国語研究所 時空間変異研究系教授）
「九州2型アクセントの実態」
3. 窪菌晴夫（国立国語研究所 理論・構造研究系教授）
「鹿児島県甕島方言のアクセント規則」
4. 松森晶子（日本女子大学教授 / 国立国語研究所客員教授）
「隠岐島3型アクセントの再解釈」
5. 新田哲夫（金沢大学教授 / 国立国語研究所プロジェクト共同研究員）
「福井市周辺部のN型アクセント」

ディスカッション

司会：ウエイン・ローレンス（ニュージーランド オークランド大学 / 国立国語研究所プロジェクト共同研究員）

5月22日（日）プロジェクト共同研究発表会

1. まつもと ひろたけ（「危機言語」プロジェクト共同研究員）
「奄美喜界島方言のアリ・リ系のかたちをめぐって」
2. 高橋 康徳（東京外国語大学大学院・日本学術振興会特別研究員）
「上海語変調におけるピッチ下降現象」

■平成23年度 第2回（「語彙の音韻特性」と合同開催）

日時：平成23年7月16日（土）・7月17日（日）

場所：国立国語研究所

7月16日

1. 青井隼人（東京外国語大学大学院 / 日本学術振興会特別研究員）

「舌端の狭めを伴う母音の音声的記述：宮古多良間方言の事例研究

2. 又吉里美（志學館大学）

「沖縄津堅島方言の文末詞について」

7月17日

3. 新永 悠人（東京大学大学院/JSPS）・小川 晋史（国立国語研究所）

「北琉球奄美湯湾方言のアクセントについて」

4. 五十嵐陽介（広島大学）田窪行則（京都大学/国立国語研究所客員教授），林由華（京都大学非常勤講師），久保智之（九州大学）

「琉球語宮古池間方言の三型アクセント体系」

■平成23年度 第3回「方言研究とテキスト—現状と展望」

日時：平成24年2月18日（土） 13:00～17:35

場所：2月19日（日） 10:00～15:30

2月18日

1. 日高水穂（関西大学）

「昔話の「語りの型」とその地域差」

2. 新田哲夫（金沢大学）

「日本語史資料としての方言テキスト」

3. 高木千恵（大阪大学）

「関西方言の自然談話にみるワ行五段動詞ウ音便形の衰退と残存」

2月19日（日）

パネルディスカッション

1. 大槻知世（東京大学学部4年生）

「津軽方言における推量形式『ビョン』の使用状況」

2. 麻生玲子（東京外国語大学大学院／日本学術振興会特別研究員）

「八重山波照間方言における動詞の屈折と派生をテキストから考察する」

3. 白田理人（京都大学大学院）

「喜界島方言—テキストから見る動詞形態論上の問題」

全体討議 コメンテーター

中山 俊秀（東京外国語大学）

風間伸次郎（東京外国語大学）

木部 暢子（国立国語研究所）

4 共同研究員

本プロジェクトの共同研究員は、以下のとおりである（2012年4月1日現在）。

ウェイン・ローレンス（オークランド大学），上野善道（国立国語研究所客員教授），大西拓一郎（国立国語研究所），金田章宏（千葉大学），狩俣繁久（琉球大学／国立国語研究所客員教授），久保智之（九州大学），窪菌晴夫（国立国語研究所），クリス・デイビス（琉球大学），下地賀代子（沖縄国際大学），下地理則（九州大学／国立国語研究所客員准教授），田窪行則（京都大学／国立国語研究所客員教授），竹田晃子（国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員），ダニエル・ロング（首都大学東京），トマ・ペラール（フランス国立科学研究所），中島由美（一橋大学），仲原穰（琉球大学），西岡敏（沖縄国際大学），新田哲夫（金沢大学），又吉里美（岡山大学），町博光（広島大学），松本泰丈（別府大学），松森晶子（日本女子大学／国立国語研究所客員教授），三井はるみ（国立国語研究所）（五十音順）